

Vol.64

Vol.64 (2015年秋号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Best Practice and Competence / PM 事例・知識	3
Activities / 支部活動	8
PM Calendar / PM カレンダー	16
Fact Database / データベース	17
Editor's Note / 編集後記	21

Best Practice and Competence / PM 事例・知識	3
◆2015年8月度 法人スポンサー「PM部門長セミナー」ご報告	
PMI日本支部 事務局	
◆私のブレークスルー体験	
・成功プロジェクト、失敗プログラム	
戦略PM オフィス	田島 彰二
Activities / 支部活動	8
・PMI Japan Festa 2015 開催のお知らせ	
・PMI日本支部リーダーミーティングLM2015 開催報告	PMI日本支部 理事・LM2015実行委員長 当麻 哲哉
PM Calendar / PM カレンダー	16
・PMI日本支部関連セミナー等	
Fact Database / データベース	17
Editor's Note / 編集後記	21

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Officeの商標又は登録商標です。

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

2015年8月度 法人スポンサー「PM部門長セミナー」ご報告

PMI日本支部 事務局

法人スポンサー様向け「PM部門長セミナー」を、2015年8月18日(火)に(株)三菱総合研究所様 本社会議室にて開催しました。

■特集：企業における人材育成

今回は「企業における人材育成」について特集し、本間淳様/日本IBM株式会社、池田修一様/PMI日本支部 OPM3®研

究会から講演をお願いしました。人材育成については皆さまの関心が高く、早々に満席となりました。



本間淳様



池田修一様

■2014年度 PMI日本支部 大賞・優秀賞受賞グループ等からの発表

また、特集テーマの講演に先立ち、2014年度 PMI日本支部 大賞(若手PM育成SG)・優秀賞(アジャイルプロジェクトマネジメント研究会、PMCDF実践研究会)受賞の3グルー

プから活動内容の報告、PM人材育成SGからはPMCDF副読本の紹介をいただきました。

「若手PM育成SG」
高橋宏壽様「アジャイルPM研究会」
中谷公巳様「PMCDF実践研究会」
塩田宏治様「PM人材育成SG」
鍋島七月様

■2015年8月度 法人スポンサー「PM部門長セミナー」ご報告

■人材育成に関わる意見交換会

企業の発展は人材育成から！PMになりたがらない若手の問題やPM自身の啓発など生々しいテーマについて、恒例のQ&A、意見交換会も活発に行われ、予定の40分があっという間でした（以下、意見交換の一例です）。

●プロジェクトのやる・やらないの判断を行う場合、バブルチャートの大きさで表現する際の指標は？

➡PMIのドキュメントには特に記載は無いが、市場占有率・伸び率、今後の可能性などのパラメーターがある。その使い方として、戦略にのっとって自分の思い通りに組み合わせて上手にツールを使って行けばよいのではないか。

●PfM、PgM、OPM3®のいずれにしても理論はわかるが、「使える感」に乏しい。「こういうに使ってみた」という事例は無いかな？

➡研究会の内部では各社の生々しい事例を伝え合ってきた。「PgM」という名前で進められている事例はあまり無く、事例は残念ながら把握していない。

●PfM、PgM、OPM3®を企業内で推進するにはどうすればいいかな？

➡何よりもトップの理解が必須である。SIや受託側だけで進めるのはやや難しいため、発注者側から「こういう価値を求めたい」ということを明示して一心同体で進める形態が望ましいのではないかな。また、標準化（文書化、テンプレート化）するなどナレッジの共有が有効だ。方向性が不確定で変更が多い場合はプロジェクトマネジメントとして実行していると大変だが、プログラムマネジメントを掲げるだけで、変更・方向性の転換は前向きなものとしてとらえられ進め易くなるのではないかな。

●現場レベルからボトムアップで導入促進する場合の施策は？

➡多くの場合、会社の中にPMOがありお客さま向けにはプロジェクト体制の整備を標榜しているが、実は社内ではプロジェクトの話は通じないことが多い。実感として体得していない上層部へのアプローチが肝要だ。



■当日参加者の所感の一例

- PMIもアジャイル等非ウォーターフォールの推進や、PMBOK®に代表される知識・スキルだけでなく、PMに必要な人格形成にも精力的に取り組んでいることが分かり、あらためてPMI活動への理解を深めることができました。
- 自身も課題として持っている育成に対する悩みが少し解消した気がします。
- 優秀賞は2件とも参考になった。アジャイルは具体的な話や理由説明がわかりやすかった。またPMCDFは目指すところと活動の繋がりがよくわかる説明だった。

- 企業からのご講演はなかなか突っ込んだお話をしづらいのだと思います。代わりにこのあとの「意見交換会」で本音を聞くことができました。
- PMコミュニティに関して、「企画しても参加しない」、「参加している人が固定化している」、「新しい人が入ってこない」等、講師の方を含めて多くの方の本音が聞けて良かった（弊社では、まさにPMコミュニティを立ち上げたところなので）。

当コーナーは「私のブレイクスルー体験」と題して、先輩PMに現場で苦勞のすえ習得した貴重な体験をご紹介いただき、若手PMの参考にさせていただくシリーズです。

私のブレイクスルー体験

■ 成功プロジェクト、失敗プログラム

戦略PMオフィス 田島 彰二

1. 成功プロジェクト

入社して10年程度の間に、その当時はニューメディアと言われていた最新鋭の技術プロジェクト、あるいは今のインターネットにつながる（入社当時、インターネットは無し！）基本的なデータネットワークを作るプロジェクト、今のDHL社のような国際物流システムの日本最初のシステム構築プロジェクト、個人のメール・情報をやりとりするシステム等を手がけた後、「プロジェクトS」に出会った。

(1) 前提

香港返還（1997）を控えた時期に、（中国国家の）経済情報システム（機能的には国家の各地の物価調査情報交換システム）を構築することになった。このシステムの特徴は、顧客が中国政府機関であること、中国国内（全土・全省）で情報を交換するシステムであること、ある意味で国家経済の中核を支えるシステムを他国（日本）の一コンピュータベンダーが構築し、運用教育を施し引き渡すという形の先進的なプロジェクトでもあった。

それを請け負った小職の会社としても、ある種の政治的配慮をしながら、最重要案件として受注したプロジェクトであった。小職は技術の取りまとめ兼プロジェクトの取りまとめの仕事を任された。この種のプロジェクトでは、海外では、アカウント・マネジャーや、現場管理マネジャー、技術とりまとめマネジャーおよび、営業マネジャーが分担して遂行するのが一般的と聞いている。しかし、当時は、契約内容のうちハードウェアを営業部門で調達し、それ以外のソフト、システム、各種の教育、移管までを小職の部門に一任する形で受

注したプロジェクトであったため、ある意味では幅広く経験できた。すなわち、通信会社の技術の質、カバー領域、能力など業務の必須要件から日常の衣食住全てについて、端から端までをいや応なく体験することとなり、プロジェクト的にはかなり厳しかったものの、その後の他国への展開準備が十分できたことは（その後のことまで考えれば構築プログラムの的には）幸せであった。

(2) はじめに

国内外を結ぶ国際システムは、それまでにも（今で言うSaaSの形で）実現してきたが、すべてのシステムを国外で動かすことは初めてであった。基本的には、日本で構築した同種のシステムを、中国本土で広く、深く（遠くまで）、長い距離で作ればよいと、たかをくくっていたのだが、以下のような想定外の流れになってしまったのは、中国という特殊性もあるが、「海外であった」からだと思っている。

(3) ビックリしたこと

1) ステークホルダ・マネジメントの観点から

- 積み上げの論理が通用しない。つまり先週まで合意していた前提も、上層部の意見が変わると週明けには簡単にくつがえると本心から思っている人の集まりであった。したがって、その都度全体枠組みが変わるのがあたり前のことであり、作業見積もり、積み上げた準備等のコストは無視されるも同然であった。
- 実質最高責任者が技術屋であり、しかも2つ前のプロジェクトからの付き合い経験があるため、当方の技術力は十分

■私のブレークスルー体験

理解していただいていた。それでも、途中段階でシステムの方向づけを大きく変える時に大論争になった。こちらは毎回記述していた議事録をベースに契約破棄寸前までもめめたが、ギリギリのところまで責任者が何とか日本側に譲歩する形で収めてくれ、最後までたどり着くことができた。間に立っていた弊社通訳の中国人が「日本人に対して中国政府の責任者が頭を下げるのは初めて見た」とまで言ったほどの出来ごとであった。

2) 技術的観点から

- お客さまに既に納入されていたネットワークシステムについて、北京の接続点でも二層目のインターフェースが混在（データ網システム装置メーカーが米系と欧州系だったため）し、その対応で大変苦労した。この手の‘技術を押さえていないシステム’にはその後も多くの国で会うことになった。
- 上位の技術エンジニア（総括技術マネジャー）に、基本的なシステム全体を記述したドキュメントを進呈したが、数ヶ月たってからその中国語訳を渡された。聞いてみれば「研究所内の論文誌に、翻訳してそのままの形で掲載したのでよろしく」とのことだった。

3) 教育訓練時の観点から

- 日本と米国の二カ国で運用、技術教育を行った。5名ずつ計10名の中国人に2週間程度訓練したが、米国での教育期間中に一名が逃走（！）し、その後のお客さま組織内での処理が大変だったと聞いている。

これらのかなり仰天する事件が起きながらも、約2年の作業期間で、無事プロジェクトが完成し、米国のコンサル会社の試験もクリアして、最終的には人民大会堂で大々的な完成パーティーが行われた。小職が日本側の最高責任者と間違われるハプニングもあったが、最後の支払いまで滞り無く終了できた（小職の所属会社としては初めての例と聞いた）。

振り返ってみると、完成までこぎつけられた理由は、以下の3点だと思われる。

- ①ステークホルダ・マネジメント：実質の最高責任者と小職が2つ前の業務から双方を認識し、ある意味信頼し合っていたこと。
- ②コスト・マネジメント：実施教育、各種資料作りまで含め

た、技術者の工数把握と、逃亡者対応も含めたそれ以外の営業活動を完全に切り分けて、技術陣はコスト低減に注力し、営業はそれなりの体制が維持できたこと。

- ③ガバナンス：技術プロジェクトと、それを外側から支援する営業体制のガバナンス構造がこの時期に強固にできていたこと。技術も権限も備えた役員が居たこと（小職も入社以来存じ上げていた）。

上記、中国大陸でのプロジェクトSの後、台湾でのプロジェクトB、タイでのプロジェクトTは、それぞれ紆余（うよ）曲折があり一歩間違えたと受注できなかったり、完成できなかったりということがあり得たのだが、それぞれ何とか「成功プロジェクト」と言える形で終了できた。つまり、中国、台湾、タイにおける「アジアISP（Internet Services Provider）構築プロジェクト」は、成功したことになる。

2. 失敗プログラム

以上、「アジアISP構築プロジェクト」を紹介した。

その後、プロジェクト構築の後工程を含めて事業を拡張し、ビジネス立ち上げのプログラムを立ち上げようとした。すなわち、中国でのプロジェクト終了後、フィリピン、ロシア、ブラジルおよび、あらためて中国の第二電電的な会社と合併で同種のプログラムを展開しようとしたが、以下のような理由で暗礁に乗り上げ、全体として、新規事業を立ち上げていくという本来のグローバルISP構築事業の立ち上げには失敗した。

その主要な理由は、以下のとおりである。

(1) 全体のビジネス構造の組織としての問題

その当時のビジネスは、日本側が主導し現地はその出先の形で行われることが事業モデルとして半ば確立していた。そのために、

- 日本側の事業主体が、負うことができる範囲のリスクしか負うつもりがなかった。つまり、事業主体が各種の予算、その時期のプロセスを含めてどこまでリスクを負い、新事業を進めるかが日本側判断のビジネス構造だった。これは、現地のモチベーション維持を含め大きなビジネスを進める上で困難な状況を作り易い構造だった。
- 古いビジネスに終始し新規ビジネス立ち上げ構築に向かない現地顧客に対して、当社の位置づけが曖昧だった。現地での当社の位置づけは特定製品（主として通信業者の電話

■私のブレークスルー体験

交換機など従来製品)の供給である場合が多かったため、協同して新規モデルを創りだす柔軟な姿勢・広い視野の構築につながらなかった。従来製品を大量に確実な技術で売り込むことに終始し、顧客側を含めての新ビジネスに目を向けるための新事業チャンネル構築に行き着いていなかった。

こういった貧弱な組織構造の中で、新事業構築のためのポートフォリオマネジメント能力、長期的にプロジェクトを束ねるプログラムマネジメント能力が必要とされていた。

つまり、筆者には(2)に示すような広い意味でのPMコンピタンス・スキル(能力)が問われることになった。

(2) 広い意味でのPMコンピタンス・スキルとしての問題

- ①当時、プログラムマネジメントなるものの存在を知らなかった。
- ②地位的には部長レベルであったが、組織の戦略整合の理解が不足し、一連のプロジェクトのつながり(プログラム)を作りそこで組織のベネフィットをコントロールすることについて認識が不足していた。
- ③プロジェクトをつなげてプログラム化するための腕力、社内・海外を含めた広い意味でのステークホルダー・マネジメントの理解が不足していた。
- ④ともすればプログラム推進、構築へエネルギーをかけ過ぎ、プロジェクトレベルの細かいコントロールに終始した。
- ⑤社内コミットメントを得ること、ガバナンス構築への注力が不足していた。

⑥最大の失敗は、上級マネジメントのコミットメントを受けて、プログラムのためのガバナンス構築を行うべきだとの理解が足らなかった。

当時の小職を振り返ると、「問題を組織(本社組織、現地組織)で改善」させることができるような、「広い意味でのPMコンピタンス・スキル」を持って対処できなかったことが今でも悔やまれる。

3. まとめ

私が経験した成功プロジェクト、失敗プロジェクトをあらためて見なおしてみると、プロジェクトマネジャー(日本では、ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメントまで含めてひとくくりになされてしまうが)に求められることは以下のようなものである。

- ◆ビジネス感覚を持って、
- ◆広い視野で、
- ◆オープンな心で所属組織の構造までアセスメントして、
- ◆初期段階でその構造・ガバナンスを確立し、
- ◆広い意味のプロジェクトを立ち上げ、
- ◆PPPM(ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメント、プロジェクト・マネジメント)を実践し、
- ◆プロジェクト終了時に上手に運用組織に引き継ぐこと。

この全体像をしっかり持ち、各種スキルを磨いて基本となる各種の人間力を含めて日々向上させることこそが、単に“失敗プロジェクト撲滅のために”という皮相な動きより重要だと思う。

《著者プロフィール》

37年にわたり、国産コンピュータ通信製造会社に勤務。主として新事業開発に従事。技術系SE, SA, PMからプログラム・マネジャー(相当)、ポートフォリオ・マネジャー(相当)、新事業企画事業責任者等を歴任。その後、2014年3月末に独立。コンサル系の業務を推進中。PMのISO化作業の委員(PC236, TC258)。主としてプロジェクトの国際標準化(ISO21500)、ポートフォリオの標準化(ISO21504)を作成してきた。PMI日本支部では、PMBOK®委員会、PFM&PGM研究会、PMO研究会、OPM3®研究会に所属。PMIの最新版の標準ドキュメント(PMBOK® v5, PGM v3, PFM v3, OPM3® v3)の貢献者リストに掲載されている。ITコーディネータ、PM学会、PMAJ、IPMA各会員。

Activities / 支部活動

PMI Japan Festa 2015 開催のお知らせ

1. 今年の Festa も工夫がいっぱい!!

毎年セミナー委員会メンバーが創意工夫して提供している Festa ですが、今年はこれまで以上に参加者の皆さんに参加いただきやすい内容となっています。

今や、Festa といえば横浜日吉! 迷わずご来場いただけるよう会場はこれまでと同じ会場(協生館 藤原洋記念館)です。





昨年と同様 9PDU を維持しつつ、貴重な週末を有意義に過ごしていただくために、二日目の日曜日は昨年より1時間

30分前倒しし、15:35 に全てのイベントが終了するプログラムとなっています。

お弁当をご持参いただく皆さんのために昼食会場を両日もご用意しました(詳細は後述)。





Festa はご参加いただいたみなさまからのご意見をもとに品質を向上させています。是非ご参加いただき、あなたもコメントをお寄せください!

2. 魅力に満ちた8人の講師陣

11月7日(土)	講師	講演テーマ	講演内容
	ジェレミ・ボダン様 特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 事務局長	国境なき医師団の組織運営とプロジェクトマネジメント	7,000人以上の海外派遣スタッフと、約3万1000人の現地スタッフが、約60の国と地域で、約400の医療人道援助プロジェクトを展開するMSF(国境なき医師団:2014年実績)。世界28カ国の事務局に勤務する約2,600人の職員が後方支援として、これらの援助活動を支える。本講演ではMSFの組織運営とプロジェクトマネジメントについて、活動地・事務局両面から、その戦略を紹介する。
	青山亮一様 東京電力株式会社 常陸那珂火力発電所 副所長	東日本大震災(3.11)の大津波被害からの奇跡の復活 ～東京電力(株)広野火力発電所4ヶ月間の復旧の取り組み～	東日本大震災では、東京電力 広野火力発電所(福島県広野町)も震度6弱の大きな揺れに見舞われ、大津波により建物は最大4mまで水没し発電設備も未曾有の甚大な被害を被った。本講演では、被害状況を克明に紹介した後、PMとしてステークホルダー間で行った情報共有やモチベーション維持の工夫をはじめ、奇跡的なプロジェクトを成功させた経緯を報告する。
	草薙直基様 認定NPO法人かものはしプロジェクト 広報・ファンドレイジング担当	子どもが売られない世界をつくるために	「認定NPO法人かものはしプロジェクト」は、子供の人身売買撲滅に向けて2002年からカンボジアで活動を始めた。い草で生活雑貨をつくる工房を経営し、貧困家庭の親に就業の場を提供することで子供の人身売買を防いだり、政府や他のNGOと協力し警察官への逮捕訓練を支援している。2012年からはインドにも活動の場を広げた。本講演ではカンボジア、インドにおける活動の歩みについてお話する。
	赤羽雄二様 ブレイクスルーパートナーズ株式会社 マネージングディレクター	ゼロ秒思考の実践	頭の中のものもやをメモに書き出すだけで、仕事、学歴、年齢、国籍を問わず誰でも不安が減り、仕事もプライベートも充実する。スピードを意識してあらゆる工夫をすることで即断即決ができるようになり、ゼロ秒思考に近づいていく。本講演では、ゼロ秒思考の実践と好循環の作り方について詳述しながら、メモを実際に書いていただきコツをつかんでいただく。

Activities / 支部活動

■ PMI Japan Festa 2015開催のお知らせ

11月8日(日)	講師	講演テーマ	講演内容
	永田 暁彦 様 株式会社ユーグレナ取締役経営戦略部長、株式会社ユーグレナインベストメント代表取締役社長	(仮)「ミドリムシで世界を救う！」その戦略	ユーグレナ社は、「栄養失調問題を解決したい」という強い意志と、「藻類を様々な産業に活用する」という夢が創業の源である。創業から10年が経ち東証一部上場企業となった今、社会性の高い夢や創業者の想いは、往々にしてステークホルダーの利益と背反することが起こり得る。本講演では、創業の夢や想いを維持しながら事業の促進をいかに実現したのかを含め、将来の戦略を説明させていただく。
	山口 絵理子 様 株式会社マザーハウス代表兼チーフデザイナー	途上国から世界に通用するブランドをつくる	マザーハウスは「途上国から世界に通用するブランドをつくる」という理念を掲げ2006年にスタート。東南アジア各国の素材や技術を使い、地元職人の手による商品を、現在は東京・大阪など国内16店舗、台湾5店舗で展開している。本講演では、途上国でのゼロからの立ち上げストーリーと、現在までの歩み、また、生産者とお客様が繋がり、もの作りの背景がみえる様々な挑戦についてお話する。
	井口 健司 様 日本ブラインドサッカー協会ダイバーシティ事業部長	目をOFFにして、心をONに ～ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング	日本ブラインドサッカー協会(JBFA)は、障がい者と健常者が当たり前に混ざり合う社会の実現をビジョンとして掲げ、視覚障がい者のスポーツであるブラインドサッカーを軸に、競技者・指導者の育成や日本代表選手の強化等を展開している。本講演では、JBFAの活動をご紹介します、プロジェクトマネジメントにおいても重要なコミュニケーション、チームビルディングについてブラインドサッカーの視点からお話する。
	稲垣 精二 様 第一生命保険株式会社企画担当 常務執行役員	第一生命における株式会社化・上場プロジェクト	2010年4月、第一生命は相互会社から株式会社へ組織変更を行うとともに東証一部に上場した。これは、日本初の相互会社として1902(明治35)年に創業した弊社にとり、歴史的な転換点となった。本講演では、社内プロジェクトチームを組成した段階から、最後に営業現場と本社、社外関係者が一体となって最難関を乗り越えるまでのプロジェクトの軌跡について、エピソードも交えてご紹介する。

3. エッセイ募集

【月例セミナーに関するエッセイの募集要項】

- ◆ 形式：自由(500文字～1,000文字程度) メール本文ベタ打ち、Wordファイル添付など
- ◆ 内容：2015年に開催された月例セミナーに関する学び、深掘り、実践などをまとめたもの
- ◆ 締め切り：2015年10月8日(木)
- ◆ 宛先：essay-festa2015@pmi-japan.org宛にメールで送信してください。
- ◆ メールタイトル：
「Festa 2015エッセイ応募」と記載してください。

応募されたエッセイの中から選ばれた感動作の応募者数名を、Festa 2015の交流会(2015年11月7日 土曜日 17時30分～ 慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館 HUB)に無料

でご招待いたします。すでに交流会に申し込み済み、参加費用振り込み済みの応募者が選出された場合には、交流会の参加費用を払い戻した上でご招待いたします。

なお、発表はご本人への連絡をもって代えさせていただきます(Festa 2015につきましてはこちらをご参照ください) 応募されたエッセイは、御希望により所属・氏名を伏せた上で、一部または全部をPMI日本支部のホームページやメールニュース等に掲載させていただくことがあります。

本件に関するお問い合わせは essay-festa2015@pmi-japan.org までお願いします。

■PMI Japan Festa 2015開催のお知らせ

4. 交流会へのお誘い

PMI Japan Festa 2015 では、毎年 Festa の中でも講演のスピノフ・セッションとして盛り上がる交流会を今年も開催します。

11月7日(土)、第一日目の講演終了後に、講演会場と同じ建物内の1階にある「HUB」に集います。昨年も同じ場所で行ったところ、立食形式で隣の人との距離も近く、知らない人同士でも気取らず気軽に話せる雰囲気が大変好評でした。

講師の方々と講演内容の深掘りはもとより、さまざまなPM仲間との交流を通して、新たな自分への一歩を踏み出すきっかけにもなるでしょう。今年は、PMI日本支部の理事も複数参加する予定ですので、現在担当しているプロジェクトの悩みなどを相談する場としても、是非、ご活用ください。

交流会を終えて帰る頃には新しい世界があなたを待っています。

5. 昼食用スペース（両日確保）

昨年、2日目の昼食用にスペースを用意しましたところ、ご自宅から持参されたお弁当やコンビニで購入されたサンドイッチなどを食べるためにご利用いただき、大変好評を得ました。

そこで、本年度は初日も含めて両日、昼食スペースを確保しました。講演会場の出入り口のすぐ横に隣接しており大変

便利です。

初日の講演の前に、早めにお越しいただいた方も、昼食スペースでゆったりと開始時刻までお待ちいただくことができます。

日吉駅周辺のお店に食べに行く時間が惜しいという方は、是非ご利用ください。

■ PMI Japan Festa 2015開催のお知らせ

PMI Japan Festa 2015のご案内



Lead the Way to New Frontiers ～未開の地へ踏み出し、未来を創造するリーダーたち～

2015年11月7日(土)、8日(日)の2日間にわたり、PMI Japan Festa 2015を開催します。

未来の開拓に取り組む『真のリーダー』をご紹介することで、参加者の意識変革とモチベーションアップを促し、プロジェクトマネジメントを通じて社会全体の活性化に貢献していくことを狙いととしています。

- 開催日■ 2015年**11月7日(土)・8日(日)**
- 受付開始■ **11:00～(7日) 9:00～(8日)**
- 講演■ **11:45～17:30(7日)
9:30～15:35(8日)**
- 交流会※■ **17:30～19:30(7日のみ)**

※交流会は、講演内容や日ごろの実務で感じている問題を講師へ問いかけたり、PM同士でざっくばらんに話ができる良い機会です。初めての方も気軽にご参加ください。

- 受講証明■ **最大9PDU(2日間合計)**
- 定員■ **各日とも400人(申込み順)**
- 申込方法■ **PMI日本支部 トップページのバナー「PMI Japan Festa2015」からどうぞ**
- 主催■ **PMI日本支部 セミナー委員会**
- 講演会場■
慶應義塾大学日吉キャンパス協生館 藤原洋記念ホール
東急東横線、東急目黒線、横浜市営地下鉄「日吉駅」徒歩1分
- 交流会会場■
日吉キャンパス協生館内「HUB」慶應日吉店



■参加費(税込)■

	PMI日本 支部会員	法人メンバー 社員	一般	受講証明
1日目のみ	11,000円 14,000円	15,000円 18,000円	21,000円 24,000円	4.5PDU
2日目のみ	11,000円 14,000円	15,000円 18,000円	21,000円 24,000円	4.5PDU
両日参加	21,000円 25,000円	27,000円 31,000円	36,000円 40,000円	9PDU
交流会	2,000円	3,000円	3,000円	—

上段の金額は、10月5日(月)15:00までに入金確認できた方への早割料金です。

■プログラム構成■

11月7日(土)	テーマ	講師
12:00～13:30	国境なき医師団の組織運営とプロジェクトマネジメント	ジェレミー・ボダン 様 国境なき医師団日本 事務局長
13:45～14:45	東日本大震災(3.11)の大津波被害からの奇跡の復活 ～東京電力(株)広野火力発電所 4ヶ月間の復旧の取り組み～	青山 亮一 様 東京電力株式会社 常陸那珂火力発電所副所長
15:00～16:00	子どもが売られない世界をつくるために	草薙 直基 様 認定NPO法人かものはしプロジェクト 広報・ファシリテーション部担当
16:15～17:15	ゼロ秒思考の実践	赤羽 雄二 様 ブレイクスルー・パートナーズ株式会社 マネージングディレクター
11月8日(日)	テーマ	講師
9:30～11:00	(仮)「ミドリムシで世界を救う！」その戦略	永田 暁彦 様 株式会社 ユーグレナ 取締役経営戦略部長
11:15～12:15	途上国から世界に通用するブランドをつくる	山口 絵理子 様 株式会社マザーハウス 代表兼チーフデザイナー
13:15～14:15	目をOFFにして、心をONに ～ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング～	井口 健司 様 日本ブラインドサッカー協会 事務局長
14:30～15:30	第一生命における株式会社化・上場プロジェクト	稲垣 精二 様 第一生命保険株式会社 企画担当常務執行役員

PMI日本支部リーダーミーティングLM2015 開催報告

PMI日本支部 理事・LM2015実行委員長
当麻 哲哉

2015年9月12日(土)と13日(日)の2日間、東京都調布市にあるNTT中央研修センターを会場にして、PMI日本支部の各部会(委員会、研究会)のリーダーたちを一堂に会した初の会議「PMI日本支部リーダーミーティングLM2015」が開催されましたので、ご報告いたします。



参加者の集合写真

● リーダーミーティングとは

この会議は、支部中期計画として行われる機構改革の一環で設置された新委員会「PMコミュニティ活性化委員会」(委員長 当麻哲哉)が中心となって企画されたものです。PMIでは各支部のリーダーを対象としたLIM (Leadership Institute Meeting)が開催されています。LIMはPMIの方向性や各支部で成功している施策等の情報共有、支部リーダー育成のための講習といった内容のセッションで構成されています。このLIMを参考に、今後のPMIや支部の方向性、施策を共有して議論する場として、日本支部の各部会リーダーを対象に実施した初の試みがこのリーダーミーティングです。

PMI日本支部は、世界中にあるPMIの他の多くのチャプターと異なり、ひとつの国でまとまっているカントリーチャプターの代表格ですが、3,000名強の会員を有し、さまざまな分野

にそれぞれの部会を設けて活動していますので、チャプターとしての世界平均を超えた活発な活動と大量の情報を抱えています。逆に言えば情報の共有、中期的方向性の統一が図りづらい状況にあり、この課題を打開するための施策として本会議が企画されました。併せて、各部会のさらなる活性化に向けてリーダー育成の場とすることも目的のひとつです。

開催にあたり、各部会のアクティブメンバーを対象にボランティアを募り、教育委員会から伊熊昭等氏、十返文子氏、セミナー委員会から松本弘明氏、PMO研究会から富田寛氏、ポートフォリオ・プログラム研究会から吉田謙一氏の5名から構成する強力な運営チームを結成しました。6月にチームを立ち上げてから開催までわずか3カ月の短い期間でしたが、伊熊リーダーを中心とした献身的な努力と、支部事務局の田中洋一郎氏、西山かおり氏、三島邦彦氏のご尽力もあって、

■PMI日本支部リーダーミーティングLM2015 開催報告

無事に開催にこぎつけることができ、支部理事一同、メンバーの皆さまに感謝しています。

●開催概要

さて、こうした目的を達成するために、支部のすべての委員会および研究会から、代表するリーダーたちに1部会最低1名の参加をお願いし、最終的に理事13名、ボランティア5名、事務局2名を含む64名が参加し、2日間にわたって会場のNTT中央研修センターで熱い議論が展開されました。

会議の初日、奥澤会長のあいさつで開幕したリーダーミーティングは、PMIアジア・パシフィックからのゲスト、SoHyun Kang マネジャーによる、「PMI本部から見た日本支部の位置づけと期待」について英語でわかりやすいスピーチと、それに続くミッション委員会 端山理事から「PMI日本支部の機構改革の方向性」と題して、現在の支部の状況、課題を整理して語っていただきました。これらは、2日目のグループワークで議論するための、重要な事前情報として提供されました。

これらの課題を議論するにあたって必要な思考方法の能力

開発として、リーダーの人材育成を兼ねたワークショップを初日の午後に入れたことが、今回の会議でもっとも特徴的な部分です。与えられた課題に対し、イノベティブでポジティブな議論をし、それを整理して可視化するための思考方法とツールの習得のため、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の白坂成功准教授を講師に迎え、「システム×デザイン思考」のワークショップを開催しました。

半日という短い時間でこの思考方法がある程度マスターするために、白坂先生には、このリーダーミーティングのために特別の工夫をしていただき、アイスブレイクとしての「マシュマロチャレンジ」を皮切りに、「ブレインストーミング」、「親和図法」、「バリュエグラフ」、「強制連想マトリクス法」、「顧客価値連鎖分析CVCA」の5つの思考ツールを効果的に学ぶワークショップを実施していただきました。

わずか半日のワークショップでしたが、使われたポストイットは1,000枚を軽く超え、消せる模造紙約50枚にまとめて廊下に敷き詰めた光景は圧巻。疲れるどころか一層元気になって、そのあとは楽しく交流会を行いました。



伊熊運営チームリーダーの開会宣言



奥澤会長のオープニングあいさつ



SoHyun Kang マネジャーのスピーチ



端山理事の支部改革説明

Activities / 支部活動

■PMI日本支部リーダーミーティングLM2015 開催報告



ワークショップの講師 白坂先生



マシュマロチャレンジでアイスブレイク



ワークショップで議論する参加者たち



床に敷き詰めたワークショップの成果物



ワークショップのあとと白坂先生を囲んで集合写真

Activities / 支部活動

■PMI日本支部リーダーミーティングLM2015 開催報告

●グループ討議

一夜明けた2日目、前日に提起された支部の課題を、「タレント・トライアングル」、「資格の多様化」、「支部会員の増加」、「若手の参加増」の4つのテーマに分けて、全体を7つのグループで討議しました。グループ分けに際しては、ボランティア・メンバーが事前に参加者のバックグラウンドを調査し、参加者の出身部会の散らばり、男女構成のバランスなど、多様性を持たせつつ、各テーマの議論に効果的なチーム



グループ討議をする参加者たち

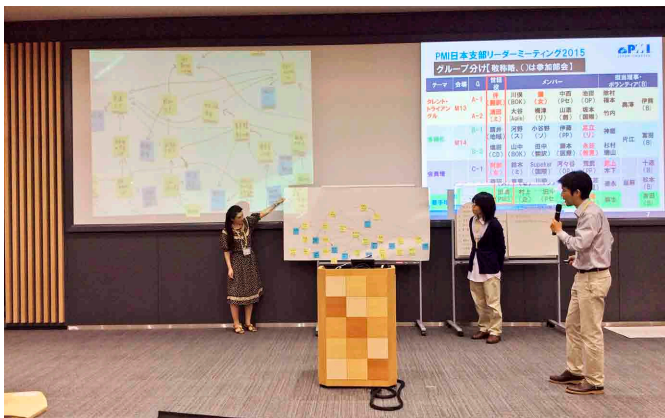
を組んで行われました。

各グループでは、前日に学んだ思考ツールを効果的に使って活発な議論が行われ、各グループで話し合った結果を最後に発表して共有、多くの質問やコメントが出てさらに突っ込んだ全体議論となりました。

これらの議論が来年度の各部会の活動計画に反映され、支部の中期計画立案のための材料になることが期待されています。



討議の途中はグループ間で情報共有



各グループから討議結果発表



発表にコメントする理事たち

●最後に

日本支部として初の試みで開催されたリーダーミーティングですが、ボランティア・メンバーと事務局を中心とした実行委員の皆さまのご尽力により、支部の歴史に輝かしく残る

素晴らしい会議となりました。現在実施している参加者の方々へのアンケートの結果をもとに改善点等を総括して、次年度以降も継続する方向で検討していきたいと思っております。参加された皆さま、本当にありがとうございました。

PM Calendar / PM カレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

■ PMI日本支部関連セミナー

- **アジャイル/デザイン思考イノベーションの基礎**
～ イノベティブな製品・サービスを創出する手法 ～
 - 日時：10月7日(水) 9:30～18:00
 - 場所：PMI日本支部セミナールーム
 - 7PDU
- **アジャイル プロジェクト スタートアップ入門**
～見積り・計画編～
 - 日時：10月30日(金) 9:30～18:00
 - 場所：PMI日本支部セミナールーム
 - 7PDU
- **12月度 月例セミナー**
ステークホルダーと共創をつくり出すコミュニケーション
プロセス ～チーム学習を加速させる環境作りと実践的
コミュニケーションを学ぶ～
 - 日時：12月10日(木)
 - 時間：19:00～21:00
 - 場所：アクセス渋谷フォーラム
 - 2PDU
- **2015年度 PMO研究会 セミナー&ワークショップ**
～今求められるPMOのありかた～
 - 日時：10月24日(土) 13:00～17:00
 - 場所：PMI日本支部セミナールーム
 - 4PDU
- **12月度 法人スポンサー連絡会 (予定)**
 - 日時：12月15日(火) 14:30～18:00
 - 場所：株式会社三菱総合研究所
 - 3PDU
- **演習で学ぶ実践的リスクマネジメント**
～リスクマネジメントの全プロセス～
 - 日時：11月14日(土) 10:00～17:30
 - 場所：PMI日本支部セミナールーム
 - 6PDU
- **PMBOK® セミナー 第5版対応**
 - 日時：12月12日(土)・13日(日)
 - 場所：PMI日本支部セミナールーム
 - 14PDU

■ PMI日本支部関連イベント

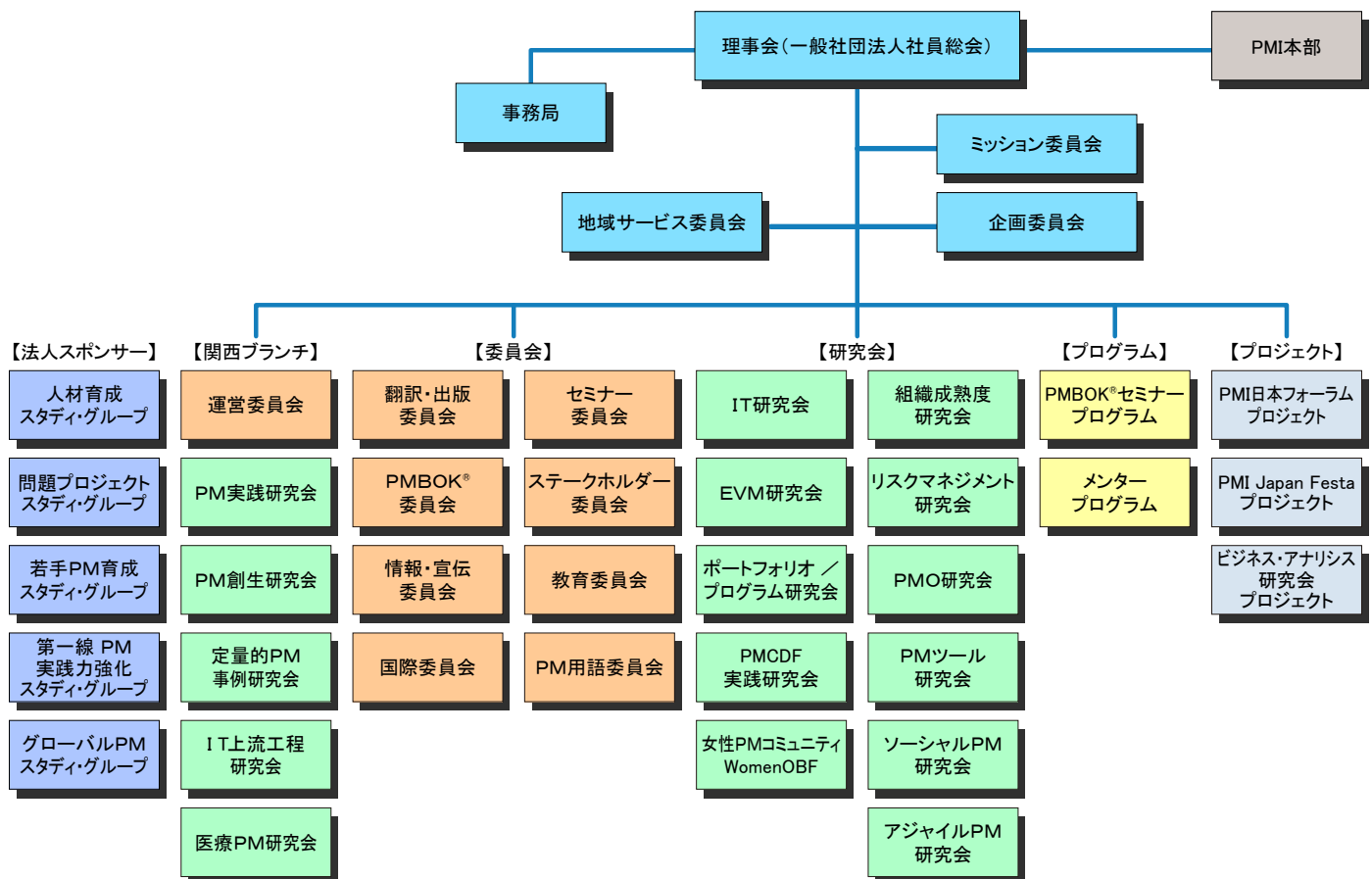
- **PMI Japan Festa 2015**
 - 日時：2015年11月7日(土)・8日(日)
 - 場所：慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館
藤原洋記念ホール
 - 9PDU

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(<https://www.pmi-japan.org/event/>)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2015年9月現在)



■ 理事一覧 (2015年9月現在)

会長	: 奥 澤 薫 (日本電気株式会社)
副会長	: 片 江 有 利 (株式会社プロシード)
理事 (ミッション担当)	: 端 山 毅 (株式会社NTTデータ)
理事 (マーケティング・会員担当)	: 徳 永 幹 彦 (株式会社日立インフォメーションアカデミー)
理事 (マーケティング・会員担当)	: 武 上 弥 尋 (アイエス情報システム株式会社)
理事 (研究担当)	: 当 麻 哲 哉 (慶應義塾大学大学院)
理事 (教育担当)	: 本 間 利 久 (北海道大学)
理事 (教育担当)	: 中 嶋 秀 隆 (プラネット株式会社)
理事 (渉外担当)	: 杉 村 宗 泰 (日本マイクロソフト株式会社)
理事 (社会貢献担当)	: 高 橋 正 憲 (PMプロ有限会社)

理事 (社会貢献担当)	: 麻生 重樹 (日本電気株式会社)
理事 (広報・宣伝担当)	: 竹内 正興 (一般財団法人国際開発センター)
理事 (財政担当)	: 三嶋 良武 (株式会社三菱総合研究所)
理事 (地域担当)	: 神庭 弘年 (神庭PM研究所)
理事 (地域担当)	: 木下 雅裕 (ニッセイ情報テクノロジー株式会社)
理事 (コンピテンシー担当)	: 福本 伸昭 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (コンピテンシー担当)	: 除村 健俊 (株式会社リコー)
監事	: 渡辺 善子
監事	: 平石 謙治

■最新の会員・資格者情報 (2015年7月31日現在)

会員数		資格保有者数						
		PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	CAPM®
PMI本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
466,645人	3,201人	665,651人	31,555人	4人	5人	4人	14人	80人

■行政スポンサー (2015年6月現在)

- ・三重県 桑名市

■法人スポンサー 一覧 (111社、順不同、2015年9月現在)

- ・TIS株式会社
- ・日本アイ・ビー・エム株式会社
- ・株式会社NSD
- ・株式会社プロシード
- ・株式会社インテック
- ・キヤノンITソリューションズ株式会社
- ・日本電気株式会社
- ・株式会社ジェーエムエーシステムズ
- ・アイアンドエルソフトウェア株式会社
- ・株式会社NTTデータ
- ・日本マイクロソフト株式会社
- ・プラネット株式会社
- ・株式会社建設技術研究所
- ・日本ユニカシステムズ株式会社
- ・株式会社クレスコ
- ・ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- ・日本ビューレット・パッカード株式会社
- ・株式会社アイ・ティー・ワン
- ・コンピューターサイエンス株式会社
- ・株式会社タリアセンコンサルティング
- ・TDCソフトエンジニアリング株式会社
- ・株式会社大塚商会
- ・日本プロセス株式会社
- ・株式会社NTTデータ関西
- ・日本ユニシス株式会社
- ・Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- ・JBCC株式会社
- ・株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
- ・日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- ・株式会社アイテック

- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立インフォメーションアカデミー
- 情報技術開発株式会社
- 富士ゼロックス株式会社
- アイシンク株式会社
- 千代田システムテクノロジーズ株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニー株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- NECネクサソリューションズ株式会社
- 株式会社三技協
- 株式会社JSOL
- NECネッツエスアイ株式会社
- リコーITソリューションズ株式会社
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社RINET
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- トップンエムアンドアイ株式会社
- PMアソシエイツ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- 日本証券テクノロジー株式会社
- 株式会社リクルートテクノロジーズ
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- International Institute for learning - Japan 株式会社
- 株式会社ラック
- ニューソン株式会社
- 三菱電機株式会社
- TAC株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 日立INSソフトウェア株式会社
- 株式会社シグマクシス
- アーケイディア・コンサルティング株式会社
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタコミュニケーションシステム
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社エンラプト
- Innova Solutions, Inc.
- 株式会社ワコム
- 株式会社HGSTジャパン
- NCS & A株式会社
- 日本システムウェア株式会社
- 日立物流システム株式会社
- SCSK株式会社
- プライスウォーターハウスクーパース株式会社
- アクシスインターナショナル株式会社
- クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社シティアスコム
- 株式会社オージス総研
- 損保ジャパン日本興亜システムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス
- グローバルナレッジネットワーク株式会社
- Hansoft株式会社
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- 株式会社EnMan Corporation
- MS & ADシステムズ株式会社

■アカデミック・スポンサー 一覧 (31教育機関、順不同、2015年9月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 北海道大学 サステイナビリティ学教育研究センター
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 大阪府立大学 21世紀科学研究機構 産学協同高度人材育成センター

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

- 2015年8月18日に(株)三菱総合研究所様 本社会議室にて開催した「PM部門長セミナー」をご紹介しました。特集テーマは「企業における人材育成」です。
- 「私のブレイクスルー体験」は、戦略PMオフィスの田島彰二様。入社10年後に出会った「プロジェクトS」。積み上げの論理が通用しない中国での苦闘を振り返ります。
- 本年11月7日・8日に迫った「PMI Japan Festa 2015」をご紹介しました。今年も未来を創造するリーダーの方々8人をお招きしています。早割は10月5日までです。乞うご期待!
- 支部機構改革の一環で新設された「PMコミュニティ活性化委員会」が中心となって企画・実施した、「PMI日本支部リーダーミーティングLM2015」の様子をご紹介しました。9月12日(土)・13日(日)の2日間、調布市にあるNTT中央研修センターで理事や部会リーダーなど60人が合宿し熱い議論が交わされました。

ニュースレター編集担当から読者の皆様へお願い

皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。PMI日本支部事務局宛てにお送りください。

PMI日本支部ニュースレター Vol.64 2015年9月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)